KURA 金沢大学学術情報リポジトリ
Kanazawa University Repository for Academic resources
金沢大学 KANAZAWA UNIVERSITY

Title	高安右人 - 病名に名前を残した先達
Author(s)	河崎, 一夫
Citation	金沢大学十全医学会雑誌, 108(2): 149
Issue Date	1999-04-20
Type	Departmental Bulletin Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/2297/9406
Right	

*KURAに登録されているコンテンツの著作権は，執筆者，出版社（学協会）などが有します。
*KURAに登録されているコンテンツの利用については，著作権法に規定されている私的使用や引用などの範囲内で行ってください。
*著作権法に規定されている私的使用や引用などの範囲を超える利用を行う場合には，著作権者の許諾を得てください。ただし，著作権者から著作権等管理事業者（学術著作権協会，日本著作出版権管理システムなど）に権利委託されているコンテンツの利用手続については，各著作権等管理事業者に確認してください。

http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/

高安右人－病名に名前を残した先達

Takayasu's disease firtst reported in J Juzen Med Soc in 1908

金沢大学医学部眼科学教室
河　崎　一　夫

高安右人（みきと）（当教室第3代教授）の名を後世に遺すことになる高安病の原著「奇異ナル網膜血管之変状ニ就テ」は十全會雑誌（十全医学会雑誌の前身）第50号（明治41年6月）に掲載された．見事に手書きした色刷りの眼底図譜を見ることができる．日本眼科学会は3年前に創立100周年を迎えた．その記念シンポジウム「病名に名前を残した先達」では高安，小口忠太（小口病発見），原田永之助（原田病発見），増田　隆（増田型中心性網膜炎発見）の4氏を回顧し，我国の眼科学の名を世界に高めた先達を讃えた．

万延元年（1860）～昭和13年（1938）

高安の報告を端緒として，類似症例の報告が相次いだ．東大の中島　実（後に金大，名大，東大教授）は大正15年に自験例と高安らの症例を比較検討し，これらを単一疾患とみなすべきと提唱した．高安病の発見を契機として，脈搏が触れにくいという病態に関心が集まり，脈無し病ないし大動脈弓症候群の概念が生まれた．病変は大動脈弓にとどまらず，腹部大動脈や腎動脈などにも検出され，さらに分子生物学的・遺伝子的異常も近年指摘され，新しい展開をみせている．

高安は佐賀県に生まれ，明治20年に東大を卒業し，翌年第四高等中学校医学部眼科医長として金沢に赴任した．この学校は明治27年に第四高等学校（四高）医学部と改称され，この年高安は付属病院長に就任した．明治34年に金沢医学専門学校と改称され，高安は校長を拝命した．大正12年に旧制金沢医科大学（金大医学部の前身）に昇格し，同時に高安は初代学長に就任し，翌年退官した．

退官後金沢で開業した．他の眼科医に迷惑をかけたくないと診療費を若干高くして患者数を抑えようとしたが，卓抜の技量と高潔な人格を慕って門前市をなした．付属病院裏の馬坂の不動明神の滝水（現存する）が高安宅の庭から流れ出る位置にあったので，この滝水で眼を洗うと眼病が治るとまでいわれた．昭和13年78歳の生涯を閉じた．付属病院横の宝円寺（加賀藩主前田家の菩提寺）に高安の墓がある．この墓の前を毎朝通勤途上に通り，偉大な先達を偲んでいる．

前記の四高は旧制高校ナンバースクールとして東京，仙台，京都についで金沢に開設されて以来，全国からの多くの俊秀が春秋に富む3年間を四高に学んだ．作家井上　靖が終生断ち難い思慕を抱き続けたのも四高であった．その医学部が金大医学部の母体となった．さらに遡れば，本学部の発祥は慶応3年（1867）加賀藩卯辰山療養所にある．同年6月加賀藩は卯辰山中腹に西洋式病院と校舎の建設に着手した．近隣の人々は大いに喜び競って工事に奉仕したので，早くも10月に落成し，疫病に永年苦しんできた住民は歓喜したという．卯辰山に登る坂道「帰厚坂」の名はこの時の「厚き恵みに帰す」に由来する．明治3年に大手町の家老津田玄蕃邸（現医師会館付近）に移転し，加賀藩医学館，金沢藩医学館の名称変遷を経て，後日の金大医学部に発展する．兼六園内の深閑とした一隅に重厚な武家屋敷の玄関がある．その門柱に金沢藩医学館と読める如く，同館の一部は兼六園に移築されて現存する．

金沢藩医学館規則は「外塾生は朝5時に出頭のこと」，「内塾生は一六休日（毎月1，11，21，6，16，26日）の他外出を禁ず」と定め，厳しく自らを律して必死に学ぶことを求めた．「金沢大学医学部百年史」（昭和47年）において西田尚紀名誉教授は「この建物が今日に残るのは一家老の建物ゆえではなく，創立百十余年の医学部の創成期の輝かしい歴史を刻むがゆえである．藩も医学生も新しい医学を彼らの精魂を傾けて学んだ場所であることを知って，この玄関前に立たれたい」と私共後輩を諭した．擱筆にあたり，本誌（102巻5号）にて高安の功績を御紹介下さった竹田亮祐名誉教授に深甚の謝意を捧げる．